

## 先端領域若手研究者グローバル人材育成

(実施期間：平成19～23年度)

実施機関：電気通信大学（代表者：梶谷 誠）

### 課題の概要

学外委員を含む「若手グローバル人材育成委員会」を学長の下に設置し、本委員会の主導により、ポスдок経験者等を5年任期の特任助教として国際公募し、採用する。本学における育成制度の特徴は、制度、資金、スペースで研究の自立性を保障するだけでなく、①任期2年目での国際的トップランクの研究機関への長期派遣、②任期後半での授業の担当、③メンター制度の導入、④研究と教育の評価、⑤テニユア・ポストは准教授または教授、にある。3年目には学外派遣の成果、今後の研究の方向性・計画などを対象として中間評価を行ない、評価基準やメンター制度の確立を図る。実施期間終了後は、本事業による制度を任期付新規助教の採用に拡充していく。

#### (1) 総合評価（所期の計画と同等の取組が行われている）

ミッションステートメントに基づいて所期の計画と同等の取組が行われている。学長のリーダーシップの下、本プログラムの趣旨に沿って人材システム改革が進んでいる。国際公募は適切に実施され、透明性・公平性の高い選考・採用により、優れた若手研究者の採用に成功している。若手研究者全員のテニユア枠が確保されている点も評価される。また、テニユア・トラック制の定着に向け自己資金の投入により採用計画の前倒しを図っており、制度の定着に向けた努力が認められる。しかし、選考過程で決定するメンターによる若手研究者への関与が過大とならないよう、若手研究者の自立性確保に向けた配慮が望まれる。

<総合評価：B>

#### (2) 個別評価

##### ①進捗状況

中間時の目標を達成しており、順調に進捗している。毎年数名を国際公募し、優れた若手研究者の採用に成功している。また、独自の取組である若手研究者の海外派遣やメンター教員の授業や演習の一部を若手研究者が担当することによって教育能力の育成も図られているものと評価される。今後、本課題実施期間中に若手研究者の育成方策及びキャリアパス支援の創案とその実施が期待される。

##### ②国際公募・審査・業績評価

選考・採用に学外委員の参画を求めるとともに、国内外の専門家にメールレビューなどを依頼することによって透明性・公平性を担保していることは評価される。採用者11名中3名が外国籍研究者であり、国際的視野に基づいた採用となっている。また、公募は分野別ではなく全学レベルで行っており、将来の学内全体へのテニユア・トラック制導入の布石となっている。中間評価、テニユア審査に際し数値基準が設けられているが、これらが機械的に適用されることを防ぐための創案と実践が望まれる。

### ③人材養成システム改革（上記②以外の制度設計に基づく実施内容・実績）

スタートアップ資金、年間研究費、研究スペースなどの研究環境整備が行き届いており、若手研究者の採用の際に決定されるメンター教員を配置し、自立的環境が整備されていることは評価される。しかし、大学院生の指導においてメンター教員が若手研究者に関与し過ぎることも危惧されることから、若手研究者の自立性確保に関するより一層の努力が必要である。あわせて、若手研究者の育成計画・体制の充実が望まれ、特に外国籍研究者の育成目標を明確にし、育成事業や支援体制を検討・改善することによって欧米に勝るモデルケースとなることが期待される。また、短期間ではあるが海外研修を奨励しており、海外での研究経験がある若手研究者にとっても、国際競争力の維持・増進のための効果が期待される。

### ④人材養成システム改革（上記②以外の制度設計に対するマネジメント）

当初は特任助教のみの公募であったが、高い業績を上げている若手研究者の応募もあったため、特任助教または特任准教授の公募に変更し、中間評価で特任准教授への昇格も可能にするなど、システム改善を進めていることは評価される。また、自己資金の投入により採用計画の前倒しを図っており、テニユア・トラック制の定着に向け準備が進んでいる。既に採用された若手研究者のテニユア枠が100%用意されていることから、本課題実施期間中の若手研究者のキャリアパス支援は予定されていないが、若手研究者の多面的な能力育成のためにもキャリアパス支援の充実が望まれる。

### ⑤今後の進め方

「全学大講座制」という発想の下にテニユア・トラック制の全学導入を決定し、平成23年度には大学運営費によるテニユア・トラック教員2名の採用を予定しており、制度を定着させる準備は整いつつあることは、高く評価される。本課題によって採用される若手研究者のテニユア枠は100%確保されており、今後も単科大学である利点を生かし、大学全体の制度改革を視野に入れた一層の発展が期待される。

### ⑥実施期間終了後の継続性

大学運営費によるテニユア・トラック准教授制とテニユア・トラック助教制の導入を計画中であり、どちらの制度もテニユア枠は担保する計画であることは、高く評価される。今後、工学系単科大学におけるテニユア・トラック制のモデルとなることが期待され、高いレベルでの継続性・発展性が期待される。

## （3）評価結果

総合評価	進捗状況	国際公募・審査・業績評価	人材養成システム改革（実施内容・実績）	人材養成システム改革（マネジメント）	今後の進め方	実施期間終了後の継続性
B	b	b	b	b	a	a